

追加情報

- ・本書では、操作設定編に追加する情報を記載しています。本機の取扱説明書 操作設定編とあわせてお読みください。
- ・お使いの機種によっては、説明の画面とカメラの画面が異なる場合があります。
- ・本書は以下の機種を対象にしています。
WV-X1534LNJ、WV-X2533LNJ、WV-X2232LJ、WV-X1571LNJ、WV-X2571LNJ

・ソフトウェア Ver.1.30

No.	機能	対応画面 (ページ)	記載ページ
1	機能拡張ソフトウェアの「管理ログ」を追加	機能拡張ソフトウェア	3ページ
2	SDメモリーカードに「機能拡張ソフトウェアモード」を追加	SDメモリーカード	4ページ

・ソフトウェア Ver.1.40

No.	機能	対応画面 (ページ)	記載ページ
3	「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更	ネットワーク	5ページ
4	「ネットワーク」にONVIF設定を追加	ネットワーク	6ページ
5	「ネットワーク」の「アドバンス」に[SRTTP]設定を追加	ネットワーク-アドバンス	7ページ
6	HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応	アラーム-通知	8ページ
7	HTTPアラーム通知機能の認証失敗時、システムログに追加	その他-システムログ	10ページ

・ソフトウェア Ver.1.50

No.	機能	対応画面 (ページ)	記載ページ
8	録画ストリームの書き込み失敗時のシステムログを追加	メンテナンス-ステータス	11ページ
9	録画ストリームの書き込み失敗を独自アラームで通知する機能を追加	アラーム-通知	12ページ
10	録画ストリームのビットレートに推奨値を超えた値を設定したときの注記を追加	映像/音声-映像	13ページ
11	SDKバージョンの表示	機能拡張ソフトウェア-ソフトウェア管理	14ページ
12	画面内文字の機能拡張	基本-基本	16ページ
13	AI-VMD、AIプライバシーガードをプリインストールに変更	機能拡張ソフトウェア	18ページ
14	機能拡張ソフトウェアのスケジュール設定画面の初期値を変更	機能拡張ソフトウェア-動作スケジュール	19ページ
15	AI-VMD関連のアラームをログリストの要因に追加	ログリスト	20ページ
16	AI-VMD関連のログをSDメモリーカードの再生画面の要因に追加	SDメモリーカード	21ページ
17	音検知アラームを追加する	アラーム	22ページ
18	イベント種別に音検知を追加する	かんたん設定-イベント動作	23ページ

19	アラーム設定に音検知を追加する	かんたん設定	24ページ
20	SD録画の「保存モード」に音検知に関する「お知らせ」を追加	基本-SDメモリーカード	25ページ
21	アラーム設定に音検知設定へのリンクを追加	アラーム-アラーム	26ページ
22	音検知設定を追加	アラーム-音検知	27ページ
23	メール通知先の通知要因に音検知を追加	ネットワーク-アドバンス	29ページ
24	SNMPトラップの通知要因に音検知を追加	ネットワーク-アドバンス	30ページ
25	スケジュール設定に音検知許可を追加	スケジュール	31ページ
26	ライブ画ページにグリッド表示機能を追加	ライブ画ページ	32ページ
27	ズーム/フォーカス調整ページにグリッド表示機能を追加	映像/音声-画質	33ページ
28	メール通知先の認証パスワードを拡張	ネットワーク-アドバンス	34ページ
29	解除キーの登録動作に関する「お知らせ」を追加	機能拡張ソフトウェア -ソフトウェア管理	35ページ

・ソフトウェア Ver.1.60

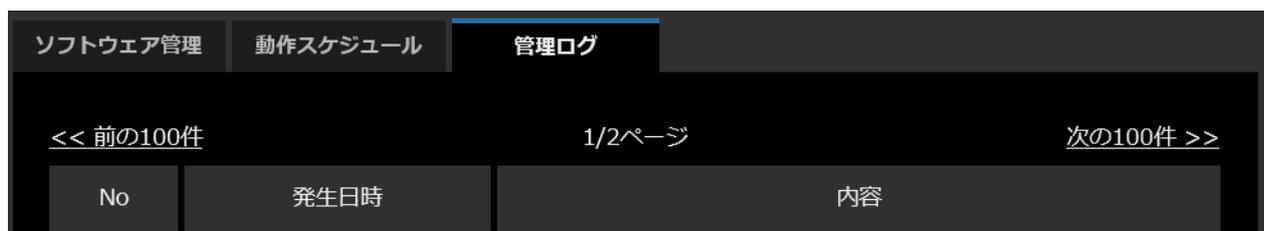
No.	機能	対応画面 (ページ)	記載ページ
30	機能拡張ソフトウェアモードOn時に録画機能を使用できるように変更	基本-SDメモリーカード	36ページ
31	SDメモリーカードの「上書き」の初期値をOnに変更	基本-SDメモリーカード	37ページ
32	インターネットモードのOn/Offの補足説明を設定画面に追加	映像/音声-映像	38ページ
33	独自アラーム通知に機能拡張ソフトウェアの試用期間満了時を追加	アラーム-通知	39ページ
34	NTPテスト機能を追加	ネットワーク-アドバンス	41ページ
35	HTTPSにTLS設定を追加	ネットワーク-アドバンス	42ページ
36	MQTT機能に対応	ネットワーク-アドバンス	43ページ
37	MQTT機能の失敗時にシステムログを追加	メンテナンス-ステータス	46ページ
38	LLDP機能に対応	ネットワーク-アドバンス	47ページ

1. 機能拡張ソフトウェアの「管理ログ」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 機能拡張ソフトウェアの管理、スケジュール設定を行う [機能拡張ソフトウェア])

機能拡張ソフトウェアに関する管理ログを表示します。

本機の内部メモリーに最大 200 件まで管理ログを保存できます。
保存できる管理ログの最大数を超えた場合は、古いログから上書きされます。
管理ログは 100 件ずつ表示され、カメラの電源を切っても保存されます。



The screenshot shows a web interface with three tabs: 'ソフトウェア管理', '動作スケジュール', and '管理ログ'. The '管理ログ' tab is active. Below the tabs, there are navigation links: '<< 前の100件', '1/2ページ', and '次の100件 >>'. Below these is a table with three columns: 'No', '発生日時', and '内容'.

No	発生日時	内容
----	------	----

- **[次の 100 件>>]**
クリックすると、表示している管理ログ一覧の次の 100 件を表示されます。
- **[ページ数表示]**
現在開いているページが「ページ/総ページ」の形式で表示されます。
- **[<<前の 100 件]**
クリックすると、表示している管理ログ一覧の前の 100 件を表示されます。
- **[No]**
管理ログの通し番号が表示されます。
- **[発生日時]**
ログの発生日時が表示されます。
- **[内容]**
管理ログの内容が表示されます。
各管理ログの内容については、以下の弊社のサポートウェブサイトを参照してください。
https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information
<管理番号 : C0317>

2. SDメモリーカードに「機能拡張ソフトウェアモード」を追加 (取扱説明書 操作・設定編 SDメモリーカードを設定する [SDメモリーカード])

基本		SDメモリーカード	ログ
運用モード			
SDメモリーカード	<input checked="" type="radio"/>	使用する	<input type="radio"/> 使用しない
機能拡張ソフトウェアモード	<input type="radio"/>	On	<input checked="" type="radio"/> Off
録音	<input type="radio"/>	On	<input checked="" type="radio"/> Off
SDメモリーカード残容量通知		50% ▼	
上書き	<input checked="" type="radio"/>	On	<input type="radio"/> Off
SDメモリーカードセキュリティ設定			
改ざん検出情報付加		詳細設定へ>>	
パスワードロック	パスワード	設定	解除 変更
	状態	未設定	

[機能拡張ソフトウェアモード]

インストールした機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用する場合に本設定をOnに設定します。

On: 機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用することができるようになります。
その場合、本機機能によるSDメモリーカードへの録画等が使用できなくなります。

Off: 機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用することができません。

初期設定: Off

お知らせ

機能拡張ソフトウェアについては、以下の弊社のサポートウェブサイトを参照してください。

https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information

<管理番号 : C0103>

3. 「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークを設定する [ネットワーク])

「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更しました。

The screenshot shows a configuration page with two tabs: 'ネットワーク' (Network) and 'アドバンス' (Advanced). The 'IPv4ネットワーク' (IPv4 Network) section is highlighted with a pink border. The '接続モード' (Connection Mode) dropdown menu is set to 'DHCP'. Other fields include IP address (192.168.0.10), subnet mask (255.255.255.0), default gateway (192.168.0.1), and DNS settings (Auto/Manual).

IPv4ネットワーク	
接続モード	DHCP
IPアドレス(IPv4)	192 . 168 . 0 . 10
サブネットマスク	255 . 255 . 255 . 0
デフォルトゲートウェイ	192 . 168 . 0 . 1
DNS	<input type="radio"/> Auto <input checked="" type="radio"/> Manual
プライマリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0
セカンダリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0

IPv4ネットワーク

【接続モード】

IPアドレスの設定方法を選択します。

固定IP : IPアドレスを「IPアドレス(IPv4)」に入力して設定します。

DHCP : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。

DHCPサーバーからIPアドレスを取得できない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

その後に、DHCPサーバーからIPアドレスを取得した場合には、そのIPアドレスに変更します。

自動設定(AutoIP) : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、自動でIPアドレスを設定します。

自動設定(おまかせ) : DHCP機能を利用してネットワークアドレス情報を参照し、使用していないIPアドレスを固定IPアドレスとしてカメラへ設定します。設定されるIPアドレスはサブネットマスクの範囲内でカメラが自動で決定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

初期設定 : DHCP

4. 「ネットワーク」にONVIF設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークを設定する [ネットワーク])

「ネットワーク」にONVIFの設定を追加しました。

ネットワーク		アドバンス		
IPv4ネットワーク				
接続モード	DHCP			
IPアドレス(IPv4)	192	168	0	10
サブネットマスク	255	255	255	0
デフォルトゲートウェイ	192	168	0	1
DNS	<input type="radio"/> Auto <input checked="" type="radio"/> Manual			
プライマリーサーバーアドレス	0	0	0	0
セカンダリーサーバーアドレス	0	0	0	0
IPv6ネットワーク				
手動設定	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off			
IPアドレス(IPv6)				
デフォルトゲートウェイ				
DHCPv6	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off			
DNSプライマリーサーバーアドレス				
DNSセカンダリーサーバーアドレス				
IPv6/v4共通				
HTTPポート番号	80	(1-65535)		
通信速度	Auto			
RTPパケット 最大送信サイズ	<input checked="" type="radio"/> 制限なし(1500byte) <input type="radio"/> 制限あり(1280byte)			
HTTPの最大セグメントサイズ	制限なし(1460byte)			
配信量制御 (ビットレート)	51200kbps			
IP簡単設定有効期間	<input type="radio"/> 20分間 <input checked="" type="radio"/> 無制限			
カメラへのFTPアクセス	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止			
ONVIF® ※ONVIFは、ONVIF,Inc.の商標です。	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効			
設定				

• [ONVIF®]

ONVIFの有効/無効を設定します。

有効 : ONVIF 機器からのアクセスが有効になります。

無効 : ONVIF 機器からのアクセスができなくなります。

初期値 : 有効

※ONVIFはONVIF,Inc. の商標です。

5. 「ネットワーク」の「アドバンス」にSRTP設定を追加 (取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] -ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

「ネットワーク」の「アドバンス」にSRTP設定を追加しました。

SRTP (Secure Real-time Transport Protocol) は、音声や動画などのデータをリアルタイムに再生するためのプロトコル「RTP (Real-time Transport Protocol)」を暗号化することができ、通信の安全性を高めることができます。



• [SRTP]

SRTPの有効/無効を設定します。

有効：SRTPに対応するクライアントでのSRTP配信が可能になります。

無効：SRTPに対応するクライアントでのSRTP配信ができなくなります。

初期値:無効

お知らせ

• SRTPを「有効」に設定した場合でも、RTPの配信も可能です。

• SRTPで接続可能なクライアントの情報は弊社サポートウェブサイトに掲載されています。

https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information
<管理番号 : C0318>

6. HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

– アラーム通知に関する設定を行う [通知] – HTTPアラーム通知について設定する)

HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応しました。

- **HTTPS通信** : [通知先]にhttps://と入力することで、HTTPS通信でアラーム通知を実施
- **Digest認証** : HTTPサーバーとのDigest認証に対応

HTTPアラーム通知		アラーム	
通知先 1	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 2	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 3	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 4	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 5	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	

設定

• [通知先 1] ~ [通知先 5]

HTTPアラーム通知するHTTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名で設定します。
通知先は5件まで設定できます。

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

初期設定 : http://

入力例 : http://IPアドレス:ポート番号、または、http://ホスト名:ポート番号
https://IPアドレス:ポート番号、または、https://ホスト名:ポート番号

• [ユーザー名]

HTTPサーバーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力可能文字数 : 0~63文字

入力不可文字 : 全角、半角記号「"」「&」「:」「;」「¥」

- **[パスワード]**

HTTPサーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0～63文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

お知らせ

• HTTPサーバーの認証要求によりBasic認証またはDigest認証を行います。

7. HTTPアラーム通知機能の認証失敗時、システムログに追加

(取扱説明書 操作・設定編 その他－システムログ表示について)

「HTTPアラーム通知に関するエラー表示」にHTTPサーバーとのユーザー認証失敗時のエラーを追加しました。

分類	表示内容	内容詳細
HTTPアラーム通知	認証エラー	・ユーザー名・パスワードが間違っている可能性があります。 HTTPアラーム通知の設定を再確認してください。

8. 録画ストリームの書き込み失敗時のシステムログを追加

(取扱説明書 操作・設定編 本機のメンテナンスを行う [メンテナンス]

–ステータスを確認する [ステータス])

SD メモリーカードに関するログに録画ストリームのライト処理で異常が発生した場合のシステムログを追加しました。

分類	表示内容	内容詳細
SDメモリーカード	<SD>フォーマット	SD メモリーカードのフォーマットに成功しました。
	<SD>フォーマットエラー	SD メモリーカードのフォーマットでエラーが発生しました。
	<SD>ライトプロテクト	ライトプロテクトされた SD メモリーカードが挿入されました。
	<SD>認識エラー	SD メモリーカードを正しく認識できません。
	<SD>ライトエラー	SD メモリーカードのライト処理でエラーが発生しました。
	<SD>リードエラー	SD メモリーカードのリード処理でエラーが発生しました。
	<SD>削除エラー	SD メモリーカードの削除処理でエラーが発生しました。
	<SD>ファイルシステムエラー	SD メモリーカードのファイルシステムでエラーが発生しました。
	<SD>その他エラー	SD メモリーカードで上記以外のエラーが発生しました。
	<SD> SDメモリーカード録画の連続性に異常が起きています。SDメモリーカードへの録画ビットレート設定をご確認ください。	SD メモリーカードのライト処理でデータの欠落が発生しました。
<SD> SDメモリーカードに異常が起きています。SDメモリーカードの状態をご確認ください。	SD メモリーカードのライト処理でデータの欠落が発生し続けています。SDメモリーカードが正しく認識されているかをご確認ください。 認識されていない場合には、本機の電源を再起動するか、SDメモリーカードを一度抜いてから改めて挿入してご確認ください。	

9. 録画ストリームの書き込み失敗を独自アラームで通知する機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

–アラーム通知に関する設定を行う [通知] –独自アラーム通知について設定する)

「診断」の独自アラーム通知の発生条件に、録画ストリームのライト処理異常を追加しました。

独自アラーム通知

● [独自アラーム通知]

以下の場合に独自アラーム通知を行うかどうかを On/Off で設定します。

- アラーム発生時 (独自アラーム通知先「アラーム」欄)
- SD メモリーカード残容量通知時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの空き容量不足時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの認識エラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの書き込みエラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)

初期設定 : Off

独自アラーム通知先

● [通知先 1] ~ [通知先 8]

独自アラーム通知先を IP アドレスまたはホスト名で設定します。通知先は 8 件まで設定できます。

「アラーム」欄 : チェックを入れると、アラーム発生時、通知します。

「診断」欄 : チェックを入れると、SD メモリーカードの残容量通知、SD メモリーカードの空き容量不足、SD メモリーカード認識エラー、SD メモリーカード書き込みエラーを通知します。

「通知先アドレス」欄 : 通知先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

設定した通知先を削除したいときは、削除したい通知先の [削除] ボタンをクリックします。

10. 録画ストリームのビットレートに推奨値を超えた値を設定したときの注記を追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像・音声に関する設定を行う [映像/音声]

–ストリームに関する設定を行う [映像])

「1 クライアントあたりのビットレート *」の「お知らせ」に、推奨値を超えたビットレートを設定した場合、SD メモリーカード録画の連続性に異常が発生する可能性がある旨を追記しました。

[1 クライアントあたりのビットレート *]

お知らせ

- ストリームのビットレートは、ネットワークページの [ネットワーク] タブにある「配信量制御 (ビットレート)」に制限されます。そのため「*」付きの値を設定した場合は、映像が配信されない場合があります。
- ストリームのビットレートは、8192kbps 以下の設定をおすすめします。8192kbps より大きい値を設定した場合は、録画映像の連続性に異常が発生する可能性があります。
- リフレッシュ間隔が短い場合、被写体によっては設定したビットレートを超過することがあります。
- 同時接続するユーザー数、または、使用する機能の組み合わせによっては、設定した値よりもビットレートが低下することがあります。設定後に、配信映像をご確認ください。

11. SDK バージョンの表示

(取扱説明書 操作・設定編 機能拡張ソフトウェアの管理、スケジュール設定を行う
[機能拡張ソフトウェア] – 機能拡張ソフトウェアのインストール、アンインストール、
バージョンアップを行う [ソフトウェア管理])

ソフトウェア管理画面に、カメラおよび機能拡張ソフトウェアのソフトウェアバージョン、SDK バージョンを追加しました。

機能拡張ソフトウェアよりカメラの SDK バージョンが古い場合、その旨を知らせるメッセージを表示します。

ソフトウェア管理画面について

The screenshot shows the 'Software Management' interface with several sections:

- カメラ固有データ (Camera-specific data):** A table listing hardware information: 機器ID番号 (Device ID), 残ROM容量 (Remaining ROM capacity: 140400 kbytes), 残RAM容量 (Remaining RAM capacity: 97600 kbytes), SDKバージョン (SDK version: 1.40), and ソフトウェアバージョン (Software version).
- AI-VMD:** A section with an 'アンインストール' (Uninstall) button, version 0.51, and '適用可能' (Applicable) status.
- AIプライバシーガード (AI Privacy Guard):** A section with an 'アンインストール' (Uninstall) button, version 1.00, and '適用可能' (Applicable) status.
- 拡張ソフトウェア (Extension Software):** A section with an 'アンインストール' (Uninstall) button, version information, and '適用可能' (Applicable) status.

Below the table is a modal dialog box with the following content:

- Buttons: 参照... (Reference...), 実行 (Execute)
- Options:
 - 新しい拡張ソフトウェアをインストールする。
 - AI-VMDをバージョンアップする。
 - AIプライバシーガードをバージョンアップする。
 - JPEGサンプルアプリをバージョンアップする。
- Footer: インストール中はブラウザを操作しないでください。

At the bottom, there are sections for 'AIプロセッサ解除ライセンス' (AI Processor License) and '解除キー登録' (License Key Registration).

カメラ固有データ

[SDK バージョン]

カメラに組み込まれている SDK のバージョン情報を表示します。インストールする機能拡張ソフトウェアがここに表示されているバージョン番号以上を必要とする場合、機能拡張ソフトウェアは正常に動作しないことがあります。

[ソフトウェアバージョン]

カメラのソフトウェアのバージョン情報を表示します。

機能拡張ソフトウェア

【バージョン】

機能拡張ソフトウェアをインストールしている場合、インストールしている機能拡張ソフトウェアのバージョン情報と、機能拡張ソフトウェアに組み込まれている SDK のバージョン情報が表示されます。カメラに組み込まれている SDK のバージョン情報が、機能拡張ソフトウェアが必要とするバージョン番号未満の場合、機能拡張ソフトウェアは正常に動作しないことがあります。

お知らせ

- SDK のバージョン情報が組み込まれていない機能拡張ソフトウェアの場合は、SDK のバージョン情報は表示されません。

12. 画面内文字の機能拡張

(取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う [基本] – 基本設定を行う [基本])

画面内文字に表示できるテキストの上限を変更しました。日時&画面内文字に透過表示機能を追加し、文字サイズの選択肢を追加しました。

[画面内文字]

画像内で表示する文字列を入力します。

入力可能文字数: 0~40 文字

入力可能文字: 0~9 (半角)、A~Z (半角、大文字、小文字)、全角 (漢字、ひらがな、カタカナなど)、半角記号「!」「"」「#」「\$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「=」「?」

初期設定: なし (空白)

お知らせ

- 「画面内文字」は最大 2 行まで設定できます。

[日時&画面内文字] – [表示形式]

表示形式を「透過」と「非透過」のどちらかに設定します。

- **透過:** 日時、および、画面内文字を透過文字で表示します。
- **非透過:** 日時、および、画面内文字を非透過 (黒塗りの上に白文字) で表示します。

初期設定: 透過

お知らせ

- 「非透過」選択時、文字サイズ、および、文字数によっては、非透過の黒塗り部分が日時、および、画面内文字の表示部より広く設定されることがあります。

[日時&画面内文字] – [文字サイズ]

画像内に表示される日付・時刻と文字列の文字サイズを選択します。

- **50%:** 標準の 50% の大きさで表示します。
- **75%:** 標準の 75% 大きさで表示します。
- **100%:** 標準の大きさで表示します。
- **150%:** 標準の 150 % の大きさで表示します。
- **200%:** 標準の 200 % の大きさで表示します。

初期設定: 100%

重要

- [日付・時刻表示位置] と [画面内文字表示位置] の設定が異なる場合、設定した値よりもフレームレートが低下することがあります。
- [日付・時刻表示位置] と [画面内文字表示位置] の設定が異なる場合、[文字サイズ] の設定と文字数によっては、文字が切れる場合や重なる場合があります。表示結果を確認のうえお使いください。
- [文字サイズ] が「150%」または「200%」に設定されている場合、設定した値よりもフレームレートが低下することがあります。
- [文字サイズ] の設定と文字数の設定や画像の解像度によっては途中までしか表示されなかったり、読み取りにくい表示になったりすることがあります。表示結果を確認のうえお使いください。

お知らせ

- 「50%」、「75%」を設定した場合でも、640x360、320x180 の画像には、「100%」の大き
さで文字を表示します。

13. AI-VMD、AIプライバシーガードをプリインストールに変更

(取扱説明書 操作・設定編 機能拡張ソフトウェアの管理、スケジュール設定を行う [機能拡張ソフトウェア])

従来は機能拡張ソフトウェアであったAI動体検知機能(以下、AI-VMD)、AIプライバシーガードを、プリインストールに変更しました。それにともない、AI-VMDとAIプライバシーガードがプリインストールされていることを、「お知らせ」に記載します。

機能拡張ソフトウェアページでは、機能拡張ソフトウェアの管理、動作スケジュール設定を行います。機能拡張ソフトウェアページでは、[ソフトウェア管理]タブ、[動作スケジュール]タブ、[管理ログ]タブで構成されます。

お知らせ

- AI-VMD (WV-XAE200W) と AI プライバシーガード (WV-XAE201W) がプリインストールされています。詳細は、それぞれの取扱説明書を参照してください。
- カメラのソフトウェアのバージョンが 1.50 未満の場合、1.50 以降にアップグレードすると、AI-VMD (WV-XAE200W) と AI プライバシーガード (WV-XAE201W) がインストールされます。

14. 機能拡張ソフトウェアのスケジュール設定画面の初期値を変更

(取扱説明書 操作・設定編 機能拡張ソフトウェアの管理、スケジュール設定を行う
[機能拡張ソフトウェア] – 機能拡張ソフトウェアのスケジュールを設定する
[動作スケジュール])

従来は機能拡張ソフトウェアであった AI-VMD、AI プライバシーガードを、プリインストールに変更しました。それにともない、機能拡張ソフトウェアのスケジュール設定画面では、AI-VMD が初期表示されます。

スケジュールの設定のしかた

- 1 機能拡張ソフトウェアの一覧から、動作スケジュールを設定するソフトウェアを選択します。
- 2 [動作する曜日] で、スケジュールを設定する曜日とタイムテーブルを選択します。
- 3 [タイムテーブル 1] [タイムテーブル 2] で、動作させる時間帯を指定します。
24 時間動作させる場合は、[00:00] ~ [00:00] を指定します。
- 4 設定が終了したら、[設定] ボタンをクリックします。

お知らせ

- 機能拡張ソフトウェアのスケジュール設定画面を開いた際、初期設定では「AI-VMD」が選択されています。AI-VMD の [動作内容] は、Off/検知設定 1/検知設定 2 から選択できます。詳しくは、AI-VMD (WV-XAE200) の取扱説明書を参照してください。

15. AI-VMD 関連のアラームをログリストの要因に追加

(取扱説明書 操作・設定編 ログリストを表示する)

ログが発生した要因に、AI-VMD 関連のアラームを追加しました。

⑤ ログリスト

- **[要因]** : ログが発生した要因を表示します。
 - **MN/SC**: 手動保存、スケジュール保存によるログ
 - **TRM1**: 端子 1 へのアラーム入力によるアラーム
 - **TRM2**: 端子 2 へのアラーム入力によるアラーム
 - **TRM3**: 端子 3 へのアラーム入力によるアラーム
 - **VMD**: 動作検知アラームによるアラーム
 - **SCD**: 妨害検知アラームによるアラーム
 - **COM**: コマンドアラームによるアラーム
 - **INT**: AI-VMD による侵入アラーム
 - **LOI**: AI-VMD による滞留アラーム
 - **DIR**: AI-VMD による方向アラーム
 - **CLD**: AI-VMD によるラインクロスアラーム
 - **FTP**: FTP 定期送信エラー保存によるログ

お知らせ

- INT/LOI/DIR/CLD は AI-VMD でのアラーム発生時に表示されます。

16. AI-VMD 関連のログを SD メモリーカードの再生画面の要因に追加 (取扱説明書 操作・設定編 SDメモリーカードの画像を再生する -SDメモリーカードに保存されている「ストリーム(1)」／「ストリーム(2)」／ 「ストリーム(3)」／「ストリーム(4)」の画像を再生する場合)

ログが発生した要因の表示に、AI-VMD 関連のアラームを追加しました。

① スライダーバー

- **【要因】** : ログが発生した要因を表示します。
 - **MN/SC** : 手動保存、スケジュール保存によるログ
 - **TRM1** : 端子 1 へのアラーム入力によるアラーム
 - **TRM2** : 端子 2 へのアラーム入力によるアラーム
 - **TRM3** : 端子 3 へのアラーム入力によるアラーム
 - **VMD** : 動作検知アラームによるアラーム
 - **SCD** : 妨害検知アラームによるアラーム
 - **COM** : コマンドアラームによるアラーム
 - **INT** : AI-VMD による侵入アラーム
 - **LOI** : AI-VMD による滞留アラーム
 - **DIR** : AI-VMD による方向アラーム
 - **CLD** : AI-VMD によるラインクロスアラーム

お知らせ

- INT/LOI/DIR/CLD は AI-VMD でのアラーム発生時に表示されます。

17. 音検知アラームを追加する

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム発生時の動作について—アラームの種類について)

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、アラームの種類に、音検知によるアラームを追加します。

端子アラーム：アラーム入力端子にセンサーなどのアラーム機器を接続すると、接続したアラーム機器が動作したとき、アラーム動作を行います。

• **動作検知アラーム**：設定した動作検知エリアの画像に変化（動き）が検出されると、アラーム動作を行います。

※動作検知：VMD（Video Motion Detector）＝動き検出、モーションディテクター機能

• **妨害検知アラーム**：カメラを布やふたなどで覆い隠されたり、カメラの向きを大きく変えられるなどして被写体が変わったときにアラーム動作を行います。

• **コマンドアラーム**：ネットワークを経由して接続機器からの独自アラーム通知を受信すると、アラーム動作を行います。

• **音検知アラーム**：設定した音検知のしきい値を超えると、アラーム動作を行います。

• **機能拡張ソフトウェアからのアラーム通知**：アラーム機能を有する機能拡張ソフトウェアをインストールした場合、機能拡張ソフトウェアの機能によりアラームが発生すると、アラーム動作を行います。機能拡張ソフトウェアの詳細は弊社のサポートウェブサイト

(https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information <管理番号：C0103>) を参照ください。

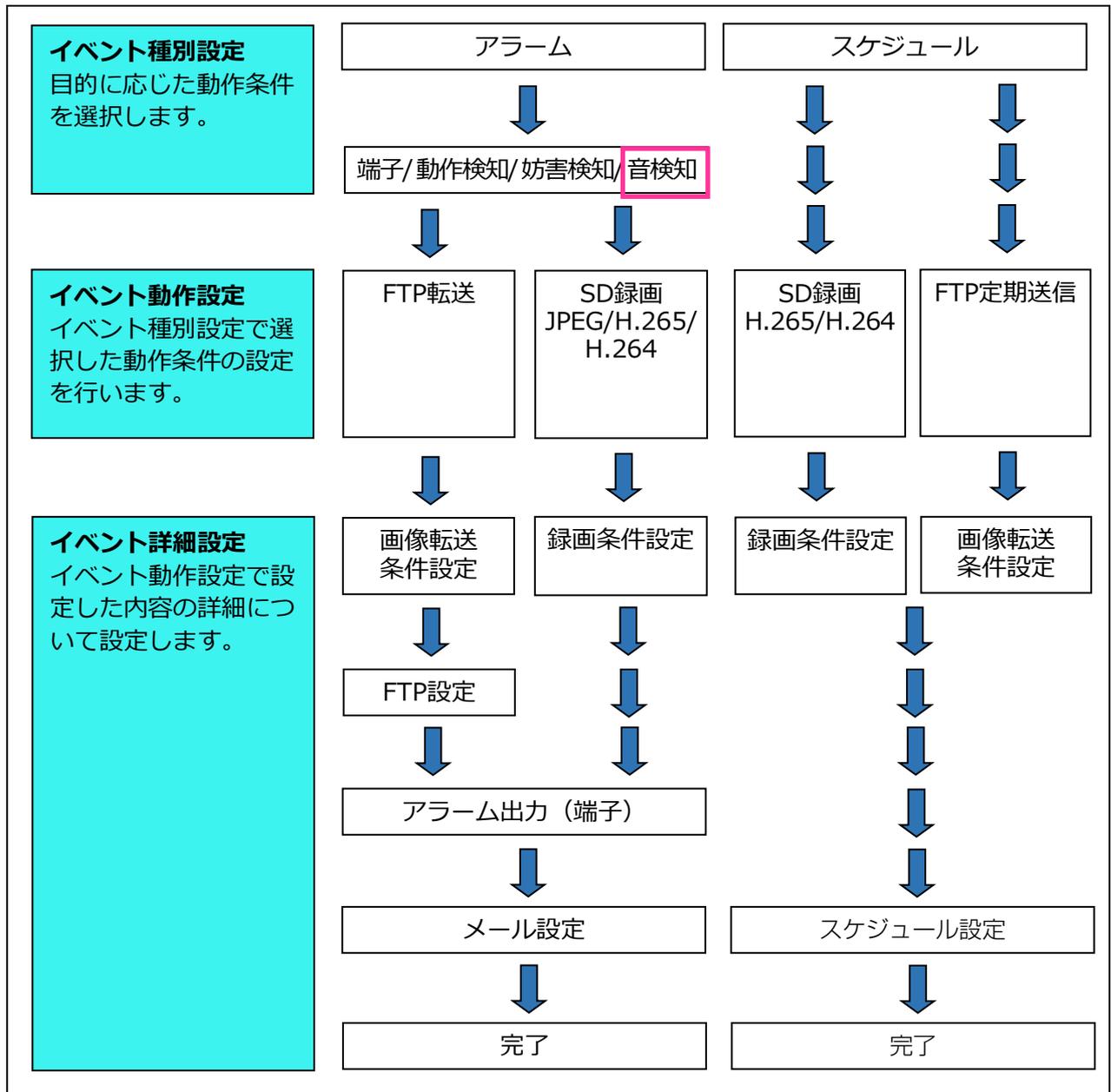
18. イベント種別に音検知を追加する

(取扱説明書 操作・設定編 かんたん設定を使用する [かんたん設定])

- イベント動作を設定する [イベント動作])

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、「イベント動作設定の流れ」に音検知を追加します。

イベント動作設定の流れ



19. アラーム設定に音検知を追加する

(取扱説明書 操作・設定編 かんたん設定を使用する [かんたん設定])

–アラーム：端子および動作検知を設定する（アラーム設定画面）

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、アラーム設定画面に音検知アラームの On/Off を追加します。

アラーム	
端子 1	Off
端子 2	Off
端子 3	Off
動作検知アラーム	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
妨害検知アラーム	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
音検知アラーム	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off
アラーム無検知時間	5 s (5-600s)

アラーム

• [動作検知アラーム]

On：動作検知エリアが設定されていない場合、全領域を設定します。動作検知エリアを設定する場合は、アラームページの [動作検知エリア] タブで設定します。

Off：動作検知状態をすべて無効にします。

初期設定：Off

• [妨害検知アラーム]

On：妨害検知エリアが設定されていない場合、全領域を設定します。妨害検知エリアを設定する場合は、アラームページの [妨害検知エリア] タブで設定します。

Off：妨害検知状態をすべて無効にします。

初期設定：Off

• [音検知アラーム]

On：音検知アラームを使用します。[AI 音識別対象] の各項目がすべて有効となります。

Off：音検知アラームを使用しません。

初期設定：Off

20. SD 録画の【保存モード】に音検知に関する「お知らせ」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う【基本】－SDメモリーカードを設定する【SDメモリーカード】)

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、音検知アラームが発生しても SD メモリーカードへの録画は行われなことを記載します。

録画ストリーム

【保存モード】

お知らせ

- 「録画圧縮方式」が「ストリーム(1)」、「ストリーム(2)」、「ストリーム(3)」、「ストリーム(4)」の場合、「FTP 定期送信エラー時」は設定できません。
- アラームを発生させるには、【アラーム】タブでアラームを設定してください。
- 「録画圧縮方式」が「JPEG(1)」、「JPEG(2)」の場合、「スケジュール保存」は設定できません。
- 弊社製ネットワークディスクレコーダーと接続した場合、【保存モード】が「通信異常検出時」でグレーアウト表示になる場合があります。レコーダーとの接続を外した後に【保存モード】の設定を変更するには、一度【SDメモリーカード】を「使用しない」に設定し、再度「使用する」に設定してください。
- 【保存モード】を「アラーム発生時」に設定しても、音検知のアラームの場合は、SDメモリーカードへの画像の保存はされません。

21. アラーム設定に音検知設定へのリンクを追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム] – アラーム動作に関する設定を行う [アラーム])

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、アラーム設定に音検知設定へのリンクを追加します。



アラーム		動作検知エリア	妨害検知エリア	音検知	通知
アラーム					
端子 1	Off				
端子 2	Off				
端子 3	Off				
動作検知アラーム	動作検知設定へ				
妨害検知アラーム	妨害検知設定へ				
音検知アラーム	音検知設定へ				
コマンドアラーム	コマンドアラーム	<input checked="" type="radio"/> On <input type="radio"/> Off			
	受信ポート番号	8181 (1-65535)			
アラーム無検知時間	5 s (5-600s)				

アラーム

- **【動作検知アラーム】**
「動作検知設定へ」をクリックすると、アラームページの [動作検知エリア] タブが表示されます。
- **【妨害検知アラーム】**
「妨害検知設定へ」をクリックすると、アラームページの [妨害検知エリア] タブが表示されます。
- **【音検知アラーム】**
「音検知設定へ」をクリックすると、アラームページの [音検知] タブが表示されます。
- **【コマンドアラーム】**
コマンドアラームの入力を受け付けるかどうかを On/Off で設定します。
コマンドアラームとは、他のカメラからの独自アラーム通知を受信する機能です。「On」に設定すると、複数のカメラで連動してアラーム動作を行うことができます。
初期設定 : Off

22. 音検知設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う【アラーム】 - 音検知に関する設定を行う【音検知】)

音検知機能を新たに追加しました。それにもない、アラームページに音検知の設定をするタブを追加します。

アラームページの【音検知】タブをクリックします。

ここでは、音検知に関する設定を行います。

重要

- 音検知機能を使用して音声を検出したときには、音検知したことがわかるように、アラーム発生通知ボタンを表示します。
- 端子アラームでアラーム入力を受け付けた場合や、コマンドアラームを受け付けた場合にも、アラーム発生通知ボタンが表示されます。
- ネットワークの環境によっては、通知が遅れる場合があります。
- 音検知機能は、常に高い信頼性を求められる用途（未然防止を目的としたシステム）には適していません。万一発生した事故または損害に対する責任は一切、負いかねます。



• 【音検知】

音検知を行うかどうかを On/Off で設定します。

On : 音検知を行います。

Off : 音検知を行いません。

初期設定 : Off

• 【検知感度】

検知の感度を「低」「中」「高」から選択します。

初期設定 : 中

• 【AI 音識別対象】

AI 音識別の検出対象を選択します。

- 銃声：銃声、爆発音、衝撃音、破裂音を検知します。
- 悲鳴：人の悲鳴、叫び声を検知します。
- クラクション：車のクラクションを検知します。
- ガラスの割れる音：ガラスが割れる音を検知します。
- その他：銃声、悲鳴、クラクション、ガラスの割れる音以外を検知します。

お知らせ

- 以下のような場合、対象音を検知できない場合があります。
 - 悲鳴／クラクション／ガラスの割れる音の継続時間が、1 秒より短い場合
 - 対象音と周囲の騒音との差が 6 dB 未満の場合
 - 雨がカメラ・マイクに直接当たる場合
- 複数種別の対象音が同時に発生した場合、1 種類のみアラーム通知されます。

23. メール通知先の通知要因に音検知を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] – ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] – メール送信について設定する)

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、通知先の通知要因に音検知を追加し、メール本文に入力されるアラーム要因に音検知アラームを追加します。

• [通知先 1] ~ [通知先 4]

通知先のメールアドレスを設定します。通知先は 4 件まで設定できます。

入力可能文字数 : 3~128 文字

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「@」「.」「_」「-」

設定したメールアドレスを削除したいときは、削除したいメールアドレスの [削除] ボタンをクリックします。

端子 1 : 端子 1 にアラームが発生したときに、メール通知します。

端子 2 : 端子 2 にアラームが発生したときに、メール通知します。

端子 3 : 端子 3 にアラームが発生したときに、メール通知します。

動作検知 : 動作検知が発生したときに、メール通知します。

妨害検知 : 妨害検知が発生したときに、メール通知します。

コマンドアラーム : コマンドアラームが入力されたときに、メール通知します。

音検知 : 音検知が発生したときに、メール通知します。

診断 :

- SD メモリーカード残容量通知時
- SD メモリーカードの空き容量不足時
- SD メモリーカードの認識エラー時

• [メール本文 (アラーム発生時)]

アラームメールの本文を入力します。

入力可能文字数 : 0~200 文字

アラーム要因 : メール本文にアラーム要因%p%が追加されます。%p%の部分は、アラームが発生した要因に置き換えられて送信されます。

- 動作検知アラームの場合 : "VMD"
- 妨害検知アラームの場合 : "SCD"
- 端子アラームの場合 : 「端子名称」の「端子 1」、「端子 2」、「端子 3」で設定した各端子名称。
(例 : 端子 1 の名称が「Terminal1」の場合は"Terminal1")
- コマンドアラームの場合 : "CMD"
- 音検知アラームの場合 (AI 音識別対象 : 銃声) : "Audio detection Gunshot"
- 音検知アラームの場合 (AI 音識別対象 : 悲鳴) : "Audio detection Yell"
- 音検知アラームの場合 (AI 音識別対象 : クラクション) : "Audio detection Vehicle Horn"
- 音検知アラームの場合 (AI 音識別対象 : ガラスの割れる音) : "Audio detection Glass Break"
- 音検知アラームの場合 (AI 音識別対象 : その他) : "Audio detection"

発生時刻 : メール本文に発生時刻%t%が追加されます。%t%の部分は、アラームが発生した時刻 (時 : 分 : 秒) に置き換えられて送信されます。

初期設定 :

- アラーム要因 : チェックあり
- 発生時刻 : チェックあり
- メール本文 : The %p% alarm was occurred at %t%.

24. SNMP トラップの通知要因に音検知を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] - ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] - SNMPを設定する)

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、SNMP のトラップ通知設定に、音検知アラームに関する設定を追加します。

トラップ通知設定

- **[アラーム] - [動作検知] - [有効/無効]**

チェックボックスにチェックを入れた場合、動作検知が発生したときに、トラップを通知します。

初期設定：チェック無し（無効）

- **[アラーム] - [動作検知] - [通知文字列]**

[動作検知] のトラップの通知に使用する文字列を設定します。

入力可能文字数：0~20 文字

入力可能文字：0~9（半角）、A~Z（半角、大文字、小文字）、半角記号「!」「"」「#」「\$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「=」「?」

初期設定：VMD alarm

- **[アラーム] - [音検知] - [有効/無効]**

チェックボックスにチェックを入れた場合、音検知が発生したときに、トラップを通知します。

初期設定：チェック無し（無効）

- **[アラーム] - [音検知] - [通知文字列]**

[音検知] のトラップの通知に使用する文字列を設定します。

入力可能文字数：0~20 文字

入力可能文字：0~9（半角）、A~Z（半角、大文字、小文字）、半角記号「!」「"」「#」「\$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「=」「?」

初期設定：audio

- **[アラーム] - [コマンドアラーム] - [有効/無効]**

チェックボックスにチェックを入れた場合、コマンドアラームが発生したときに、トラップを通知します。

初期設定：チェック無し（無効）

- **[アラーム] - [コマンドアラーム] - [通知文字列]**

[コマンドアラーム] のトラップの通知に使用する文字列を設定します。

入力可能文字数：0~20 文字

入力可能文字：0~9（半角）、A~Z（半角、大文字、小文字）、半角記号「!」「"」「#」「\$」「%」「&」「'」「(」「)」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「=」「?」

初期設定：cmd

お知らせ

- アラーム発生時の SNMP トラップ通知を動作させるためには、アラーム動作の設定が必要です。
アラーム動作に関する設定を行うには、取扱説明書の操作・設定編の「アラーム設定を行う [アラーム]」を参照してください。

25. スケジュール設定に音検知許可を追加

(取扱説明書 操作・設定編 スケジュールの設定を行う [スケジュール])

音検知機能を新たに追加しました。それにともない、スケジュール設定に、音検知許可の設定項目を追加します。

スケジュールページでは、以下の項目についてスケジュールを設定します。

- アラーム入力許可 (端子 1,2,3)
- アラーム入力許可 (端子 1)
- アラーム入力許可 (端子 2)
- アラーム入力許可 (端子 3)
- 動作検知許可
- 妨害検知許可
- 音検知許可
- 画像公開許可
- SD 録画
- シーンファイル
- FTP 定期送信
- メール送信許可
- 全アラーム検知許可 (みえますねっと設定時、かつスケジュール 5 のみ)
- カメラの再起動 (スケジュール 5 のみ)

スケジュールページは、[スケジュール] タブのみで構成されています。

1 「動作モード」からスケジュールの動作を選択します。

初期設定時は「Off」に設定されています。

Off : スケジュール動作を行いません。

アラーム入力許可 (端子 1,2,3) : スケジュール設定されている間、端子のアラーム入力を許可します。

アラーム入力許可 (端子 1) : スケジュール設定されている間、端子 1 のアラーム入力を許可します。

アラーム入力許可 (端子 2) : スケジュール設定されている間、端子 2 のアラーム入力を許可します。

アラーム入力許可 (端子 3) : スケジュール設定されている間、端子 3 のアラーム入力を許可します。

動作検知許可 : スケジュール設定されている間、動作検知を許可します。

妨害検知許可 : スケジュール設定されている間、妨害検知を許可します。

音検知許可 : スケジュール設定されている間、音検知を許可します。

26. ライブ画ページにグリッド表示機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 PCから画像を見るーライブ画ページについて)

Internet Explorer(IE)以外のブラウザでアクセスした時のライブ画ページに、グリッド表示機能を追加しました。



● 【グリッド表示】ボタン

機能拡張ソフトウェアを用いる際の本機の位置調整に使用可能な、グリッド表示の On/Off を設定します。

機能拡張ソフトウェアごとの調整サイズについては、サポートウェブサイトに掲載されています。

https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information

<管理番号 : C0320>

27. ズーム／フォーカス調整ページにグリッド表示機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像・音声に関する設定を行う [映像／音声])

– 画質調整、ズーム／フォーカス、プライバシーゾーン、VIQS、レンズ歪み補正を設定する [画質] – ズーム／フォーカスを調整する)

映像／音声ページの [画質] タブの「ズーム／フォーカス調整」にグリッド表示機能を追加しました。



• [グリッド表示]

機能拡張ソフトウェアを用いる際の本機の位置調整に使用可能な、グリッド表示の On/Off を設定します。

機能拡張ソフトウェアごとの調整サイズについては、サポートウェブサイトに掲載されています。

https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information

<管理番号：C0320>

28. メール通知先の認証パスワードを拡張

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] - ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] - メール送信について設定する)

メール通知先の認証用パスワードについて入力可能文字数を 128 文字に拡張しました。

- **【認証-パスワード】**

サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0~128 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

29. 解除キーの登録動作に関する「お知らせ」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 機能拡張ソフトウェアの管理、スケジュール設定を行う
[機能拡張ソフトウェア] – 機能拡張ソフトウェアのインストール、アンインストール、
バージョンアップを行う [ソフトウェア管理])

解除キーを登録したあとは本機が再起動することを、「お知らせ」に追加しました。

機能拡張ソフトウェアをインストールする

4 解除キー番号を取得し、解除キー登録を行います。

お知らせ

- 機能拡張ソフトウェアの種類によっては、解除キー登録が必要な場合があります。解除キーの取得、および登録方法については、機能拡張ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 解除キーの登録後、本機は再起動します。本機が再起動した後、解除キーが登録されていることを確認の上、機能拡張ソフトウェアの設定をしてください。

AIプロセッサ解除ライセンス 解除キー登録

AIプロセッサ解除ライセンス (WV-XLE001W : 別売) の解除キー番号を入力します。AIプロセッサ解除ライセンスを使用すると、他社から発売される本機のAIプロセッサを使用するアプリケーションソフトウェアを有効にすることができます。

お知らせ

- 解除キーの登録後、本機は再起動します。本機が再起動した後、解除キーが登録されていることを確認の上、機能拡張ソフトウェアの設定をしてください。

30. 機能拡張ソフトウェアモード On 時に録画機能を使用できるように変更 (取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う [基本] –SDメモリーカードを 設定する [SDメモリーカード])

機能拡張ソフトウェアモードを On に設定しても、本機機能による SD メモリーカードへの録画機能を利用できるようになります。

[機能拡張ソフトウェアモード]

インストールした機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用する場合に本設定を On に設定します。

- **On:** 機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用することができるようになります。
- **Off:** 機能拡張ソフトウェアが、本機のSDメモリーカードを使用することができません。

初期設定 : Off

お知らせ

・機能拡張ソフトウェアについては、以下の弊社のサポートウェブサイトを参照してください。
https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information
<管理番号 : C0103>

・機能拡張ソフトウェアモードを On から Off に設定する場合は、SD メモリーカードのフォーマットを行うことを推奨します。

・SD メモリーカードを使用する機能拡張ソフトウェアを動作させる場合、SD メモリーカードへの録画機能の動作は保証できません。

31. SD メモリーカードの「上書き」の初期値を On に変更

(取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う [基本] -SDメモリーカードを設定する [SDメモリーカード])

【上書き】

SD メモリーカードの空き容量が少なくなったときに、画像を上書きして保存するかどうかを設定します。

- On: SD メモリーカードの空き容量が少なくなった場合、古い画像から上書きして繰り返し保存します。
- Off: SD メモリーカードの空き容量がなくなった場合、SD メモリーカードへの保存を停止します。

初期設定 : On

32. インターネットモードの On/Off の補足説明を設定画面に追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像・音声に関する設定を行う [映像/音声] –ストリームに関する設定を行う [映像])

インターネットモード設定の On/Off の補足説明を追記しました。

ストリーム(1)	
ストリーム配信	<input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off
圧縮方式	<input type="radio"/> H.265 <input checked="" type="radio"/> H.264
インターネットモード	<input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off ※「On」に設定すると、HTTPポートを使用してストリームを配信します。 「Off」に設定すると、UDPポートを使用してストリームを配信します。
解像度	3840x2160 ▼

[インターネットモード]

H.265 (または H.264) 画像をインターネット経由で配信する場合に選択します。ブロードバンドルーターの設定を JPEG 画像配信時と同じ設定のままでストリームを配信することができます。

- **On** : HTTP ポートを使用して H.265 (または H.264) 画像、音声を配信します。HTTP ポート番号の設定については「ネットワークを設定する[ネットワーク]」の「IPv6/v4 共通」をお読みください。
- **Off** : UDP ポートを使用して H.265 (または H.264) 画像、音声を配信します。

初期設定 : On

お知らせ

- 「On」に設定すると、配信方式は「ユニキャスト(ポート番号設定:オート)」に制限されます。
- 「On」に設定すると、ストリームの画像が表示されるまでに数秒かかります。
- 「On」に設定すると、本機に同時にアクセスするユーザー数や音声データの有無などによっては、ストリームの画像が表示されない場合があります。
- 「On」に設定すると、IPv4 アクセスのみに制限されます。

33. 独自アラーム通知に機能拡張ソフトウェアの試用期間満了時を追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

– アラーム通知に関する設定を行う [通知] – 独自アラーム通知について設定する)

機能拡張ソフトウェアの試用期間満了を独自アラームの診断通知として、通知機能を追加しました。

独自アラーム通知

● [独自アラーム通知]

以下の場合に独自アラーム通知を行うかどうかを On/Off で設定します。

- アラーム発生時 (独自アラーム通知先「アラーム」欄)
- SD メモリーカード残容量通知時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの空き容量不足時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの認識エラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- SD メモリーカードの書き込みエラー時 (独自アラーム通知先「診断」欄)
- 機能拡張ソフトウェアの試用期間満了時 (独自アラーム通知先「診断」欄)

初期設定 : Off

お知らせ

● 独自アラームの通知は、「通知先 1」から順に通知されます (「アラーム」欄または「診断」欄にチェックした通知先のみ)。

● [アラーム拡張情報付加]

動作検知アラームの検出エリア番号を独自アラームで通知するかどうかを On/Off で設定します。

初期設定 : Off

● [通知先ポート番号]

独自アラーム通知先の受信ポート番号を設定します。

設定可能範囲 : 1~65535

初期設定 : 1818

以下のポート番号は、本機で使用していますので設定できません。

20、21、23、25、42、53、67、68、69、80、110、123、161、162、443、995、10669、10670

● [リトライ回数]

独自アラーム通知ができなかった場合の再試行回数を設定します。

設定可能範囲 : 0~30

初期設定 : 2

独自アラーム通知先

● [通知先 1] ~ [通知先 8]

独自アラーム通知先を IP アドレスまたはホスト名で設定します。通知先は 8 件まで設定できます。

「アラーム」欄 : チェックを入れると、アラーム発生時、通知します。

「診断」欄 : チェックを入れると、SD メモリーカードの残容量通知、SD メモリーカードの空き容量不足、SD メモリーカード認識エラー、SD メモリーカード書き込みエラー、機能拡張ソフトウェアの試用期間満了を通知します。

「通知先アドレス」欄：通知先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字：半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

設定した通知先を削除したいときは、削除したい通知先の [削除] ボタンをクリックします。

• [動作検知エリア別送信設定]

動作検知エリア別送信設定を行うかどうかを On/Off で設定します。

「動作検知エリア別送信設定」を「On」に設定した場合、「アラームエリア No.」が動作検知アラームで設定した「アラームエリア」の番号と合致するときのみ、アラーム通知を実施します。

動作検知アラーム以外のアラーム通知は実施しません。動作検知エリア別送信機能を使用する場合、動作検知でのアラームエリアの状態を「有効」に設定してください。

初期設定：Off

• [アラームエリア No.]

設定可能範囲：1～4

初期設定：1

重要

- 「通知先アドレス」のホスト名を入力する場合は、ネットワークページの [ネットワーク] タブで DNS の設定を行う必要があります。（→ネットワークを設定する [ネットワーク]）
- 通知先が正しく設定されていることを確認してください。通知先が存在しない場合、独自アラーム通知の遅延や送信抜けが発生することがあります。

34. NTP テスト機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
– ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] – NTP サーバーを設定する)

NTP サーバーと通信できるかを確認する為、時刻同期のテスト機能を追加しました。

ネットワーク | アドバンス

SMTP(メール) | FTP | **NTP** | UPnP | HTTPS | DDNS | SNMP | QoS | SRTP | MQTT | LLDP

NTP

時刻調整 マニュアルセッティング NTPサーバーに同期

NTPサーバーアドレス取得方法

NTPサーバーアドレス 入力例: 192.168.0.10

ポート番号 (1-65535)

時刻更新間隔

NTPテスト

設定

[NTP テスト]

「時刻調整」を「NTP サーバーに同期」を選択し、NTP サーバー情報を設定後に「実行」ボタンをクリックしてください。NTP サーバーと通信し、時刻同期を実施し、NTP 動作の確認をすることができます。

お知らせ

- ・NTP テストに成功すると、「NTP 時刻補正に成功しました。」を表示します。
- ・NTP テストに失敗すると、「NTP 時刻補正に失敗しました。」を表示します。
- ・「時刻調整」が「マニュアルセッティング」に設定している場合は、NTP テストの「実行」ボタンはグレー表示されます。
- ・「時刻調整」が、「NTP サーバーに同期」に設定されている場合で、NTP サーバーアドレスが設定されていない場合には、NTP テストの「実行」ボタンはグレーアウト表示されます。

35. HTTPS に TLS 設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –HTTPSを設定する)

HTTPS の接続方法に TLS1.1, TLS1.2, TLS1.3 の選択項目を追加しました。

ネットワーク		アドバンス	
SMTP(メール) FTP NTP UPnP HTTPS DDNS SNMP QoS SRTP MQTT LLDP			
HTTPS			
接続方法	HTTP	接続方法を「HTTPS」に設定すると、最大配信量が32Mbpsに制限されます。	
	<input type="checkbox"/> TLS1.1	<input checked="" type="checkbox"/> TLS1.2	<input checked="" type="checkbox"/> TLS1.3
証明書の選択	プリインストール		
HTTPSポート番号	443	(1-65535)	
プリインストール証明書			
ルート証明書取得	実行		
CA証明書			
CRT鍵生成	実行		
署名リクエスト(CSR)生成	実行		
CA証明書インストール		参照...	実行
情報	無効		確認 削除
設定			

【HTTPS-接続方法】

本機への接続方法を設定します。

HTTP : HTTP と HTTPS 接続が可能になります。

HTTPS : HTTPS 接続のみ可能になります。

初期設定 : HTTP

HTTPSを選択した場合に使用するTLSを選択します。

- **TLS1.1** : 有効/無効を設定します。
- **TLS1.2、TLS1.3** : 常に有効で、無効に設定することはできません。

初期設定 : **TLS1.1** : 無効、**TLS1.2** : 有効、**TLS1.3** : 有効

お知らせ

- HTTP選択時に、HTTPS接続するには、最初にHTTPS接続設定を行ってください。その後、HTTPに設定変更した場合でも、HTTPS接続が可能となります。

36. MQTT 機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

MQTT (Message Queueing Telemetry Transport) を「ネットワーク」の「アドバンス」に追加しました。アラームが発生した時に、MQTT サーバーにアラームによるイベント動作を通知することができます。

ネットワーク | アドバンス

SMTTP(メール) | ETP | NTP | UPnP | HTTPS | DDNS | SNMP | QoS | SRTP | **MQTT** | LLDP

MQTT設定 On Off

サーバー

アドレス

ポート 5553 (1-65535)

プロトコル MQTT over SSL/TLS

ユーザー名

パスワード

ルートCA証明書

インストール ファイルを選択 選択されていません 実行

情報 無効 確認 削除

サーバー証明書検証 有効 無効 サーバー証明書検証が有効の場合はルートCA証明書のインストールが必要です。

通知設定

有効/無効 通知文字列

アラーム

端子 1

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal

ペイロード terminal alarm 1

QoS Retain

端子 2

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal

ペイロード terminal alarm 2

QoS Retain

端子 3

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal

ペイロード terminal alarm 3

QoS Retain

動作検知

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/VideoMot

ペイロード video alarm

QoS Retain

音検知

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/AudioDet

ペイロード audio

QoS Retain

コマンドアラーム

トピック /PRO/NetworkCamera/Alarm/Command

ペイロード command

QoS Retain

設定

[MQTT 設定]

MQTT 機能を有効にするかどうかを On/Off で設定します。

On に設定した場合、または、カメラの起動時に On の場合、設定されたサーバーに接続します。

設定したアラームが発生した場合に、設定内容をサーバーに通知します。

初期設定 : Off

サーバー

[アドレス]

アラーム発生時に通知する MQTT サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字数：1～128 文字

入力可能文字：半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

初期設定：なし（空白）

[ポート番号]

MQTT サーバーのポート番号を入力します。

設定可能ポート番号：1～65535

初期設定：8883

以下のポート番号は、本機で使用していますので設定できません。

20、21、23、25、42、53、67、68、69、80、110、123、161、162、443、554、995、10669、10670、

[プロトコル]

MQTT サーバーとの接続で使用するプロトコルを MQTT over SSL/MQTT over TCP から選択します。

初期設定：MQTT over SSL

[ユーザー名]

MQTT サーバーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力可能文字数：0～32 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」「:」「;」「¥」

[パスワード]

MQTT サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0～32 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

ルート CA 証明書

[インストール]

証明機関から発行されたルート CA 証明書のインストールを行います

[ファイルを選択] ボタンをクリックすると表示される「ファイルを開くダイアログ」で、認証機関から発行されたルート CA 証明書のファイルを選択し、[実行] ボタンをクリックするとルート CA 証明書のインストールが実行されます。

ルート CA 証明書のデータ形式は、PEM 形式または、DER 形式になります。

[情報]

ルート CA 証明書の情報が表示されます。

無効：ルート CA 証明書がインストールされていない

ルート CA 証明書のホスト名：インストール済みの場合に表示

[確認] ボタンをクリックすると、ルート CA 証明書の詳細を確認できます。

[削除] ボタンをクリックすると、インストールしたルート CA 証明書を削除します。

[サーバー証明書検証]

[プロトコル]に「MQTT over SSL」を選択し、[サーバー証明書検証]が「有効」の場合、SSL 接続時に登録されているルート CA 証明書を用いて、サーバー証明書の検証を行います。

初期設定：有効

お知らせ

・[サーバー証明書検証] が「有効」の場合は、ルート CA 証明書をインストールしてください。

通知設定

[アラーム]

MQTT サーバーに通知するアラームイベントをチェックします。

端子 1 : 端子 1 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

端子 2 : 端子 2 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

端子 3 : 端子 3 にアラーム発生した時に MQTT サーバーに通知します。

動作検知 : 動作検知が発生した時に MQTT サーバーに通知します。

音検知 : 音検知が発生した時に MQTT サーバーに通知します。

コマンドアラーム : コマンドアラームが入力された時に MQTT サーバーに通知します。

[トピック]

送信する MQTT トピック名を設定します。トピックは「/」で区切られた階層構造になっています。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

端子 1 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/1

端子 2 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/2

端子 3 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Terminal/3

動作検知 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/VideoMotionDetection

音検知 : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/AudioDetection

コマンドアラーム : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Command

[ペイロード]

MQTT メッセージペイロードを設定します。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

端子 1 : terminal alarm 1

端子 2 : terminal alarm 2

端子 3 : terminal alarm 3

動作検知 : VMD alarm

音検知 : audio

コマンドアラーム : cmd

[QoS]

QoS のレベルを 0, 1, 2 から選択します。0<1<2 と通信品質が高くなります。

0 : QoS0 でメッセージは最高 1 回配信されます。メッセージがサーバーに届くかは保証されません。

1 : QoS1 でメッセージは最低 1 回 配信されます。メッセージが送信先に届くことが保証されるが重複して届く可能性があります。

2 : QoS2 でメッセージは正確に 1 回 配信されます。メッセージが過不足なく 1 回のみ到着することが保証されます。

初期設定 : 1

[Retain]

最後に通知したメッセージを MQTT サーバーに保存させる場合にはチェックを入れます。

初期設定 : チェックなし

37. MQTT 機能の失敗時にシステムログを追加

(取扱説明書 操作・設定編 システムログ表示について)

MQTT 機能で異常が発生した場合のシステムログを追加しました。

MQTT に関するエラー表示

分類	表示内容	内容詳細
MQTT	<MQTT>接続エラー	サーバーとの接続に失敗、証明書検証失敗、または切断された場合(ただし設定変更によるカメラからの切断は除く)
	<MQTT>通知エラー	サーバーへの Publish が失敗した場合

38. LLDP 機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

LLDP (Link Layer Discovery Protocol) を [ネットワーク] の [アドバンス] に追加しました。カメラのデバイス情報を LLDP 対応機器と送受信することで、相互運用を実現することができます。



[LLDP]

LLDP 機能および Fabric Attach を有効にするかどうかを有効/無効で設定します。

初期設定：無効

「有効」に設定すると、以下の表のチェックが付いている TLV を含む LLDP を送信します。

End Of LLDPDU TLV	Chassis ID TLV	Port ID TLV	Time To Live TLV	Port Description TLV	System Name TLV	System Description TLV	System Capability TLV	Management Address TLV	IEEE802.3 Power via MDI TLV	Fabric Attach Element TLV
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

※PoE+電源供給に対応している機種は、「無効」に設定していても PoE+電源供給のために、以下の表のチェックが付いている TLV を含む LLDP を送信します。

End Of LLDPDU TLV	Chassis ID TLV	Port ID TLV	Time To Live TLV	Port Description TLV	System Name TLV	System Description TLV	System Capability TLV	Management Address TLV	IEEE802.3 Power via MDI TLV	Fabric Attach Element TLV
✓	✓	✓	✓						✓	

Fabric Attach

[Fabric Attach 認証鍵]

Fabric Attach 認証に使用する鍵を入力します。なお、「LLDP」が「有効」の時のみ有効です。

入力可能文字数 : 0~32 文字 (Fabric Attach 認証を行わない場合、空白にして下さい。)

入力可能文字 : 半角英数字

初期設定 : なし (空白)

お知らせ

- ・[設定]ボタンをクリックすると、本機を再起動します。再起動後、電源投入時と同様に約 2 分間操作できません。
- ・Fabric Attach で接続できる機器の情報は、当社サポートウェブサイトに記載されています。
https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information

av1120-4121 PGQQ1438VA